平成22年度 大気環境測定結果

○中央卸売市場では、平成16年度から隔年で、大気汚染に係る環境基準(※)のうち下記4物質の測定を実施しています。

○平成22年度は、平成23年2月の休市日を含む連続した3日間、4市場の計17箇所にて測定しました。その結果、平成20年度調査に引き続き、全測定箇所にて環境基準を達成しました。

○調査物質の測定値は、概ね低減又は横ばいの傾向にあります。

※「環境基準」とは、大気汚染等に係る環境上の条件について、国が環境基本法に基づいて定めた、人の健康を保護し生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準です。

1 調査物質の特徴

調査物質	市場での発生源	性質・影響等
二酸化窒素 (NO ₂)	主として自動車 (燃料の燃焼)	・呼吸器疾患の原因 ・酸性雨及び光化学スモッグの原因物質
二酸化硫黄 (SO ₂)	主としてディーゼル自動車 (燃料の燃焼)	・呼吸器疾患の原因 ・酸性雨の原因物質
一酸化炭素 (CO)	主として自動車 (燃料の不完全燃焼)	・酸素欠乏による中毒の原因 (頭痛・意識障害等)
浮遊粒子状物質 (SPM)	主としてディーゼル自動車 (燃料の燃焼)	・粒子が細かく軽いため、大気中に滞留する ・呼吸器疾患の原因

2 環境基準超過箇所数(年次推移)

環境基準		環境基準を超過した市場・箇所数		
調査物質	条件	平成18年度	平成20年度	平成22年度
二酸化窒素 (NO ₂)	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでの範囲内又はそれ以下であること。	築地 5箇所 淀橋 1箇所 北足立 1箇所 葛西 1箇所	なし	なし
二酸化硫黄 (SO ₂)	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ1時間値が0.1ppm以下であること。	なし	なし	なし
一酸化炭素 (CO)	1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。	築地 1箇所	なし	なし
浮遊粒子状物質 (SPM)	1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。	淀橋 1箇所	なし	なし
測定市場・箇所数		11市場40箇所	11市場40箇所	4市場17箇所 ※

※平成22年度は、平成18年度に環境基準を超過した市場(築地・淀橋・北足立・葛西)にて測定を実施しました。